

令和元年度 授業改善推進プラン 調布市立（第一小）学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

- ①「第一学校小学校学習規律について」を基に、発達段階に応じた学習規律を身に付けさせる。
- ②各教科・領域の基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る。
- ③発達段階に応じた家庭学習の内容を工夫し、家庭での学習の習慣を定着させる。
- ④習熟度別指導や協力授業などを取り入れ、個に応じた指導を行う。
- ⑤毎時間の授業において、見通しをもったり、振り返ったりする活動を充実させる。
- ⑥自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、学ぶ意欲を高める指導と評価の改善・充実を図る。

【都「児童・生徒の学力向上に関する調査結果分析内容」】

国・社・算・理の4教科3観点(国語は4観点)において、すべて都の平均を上回っている。特に、国語の「話す・聞く」、算数の「思考・判断・表現」、算数の「技能」は、都の平均を10ポイント以上上回っている。しかし、個人別正答数は、国語は4問～18問(最大人数の正答数15問)、社会2問～18問(同17問)、算数1問～26問(同18問)、理科2問～18問(同12・13問)と、学力差が確認できる。主体的・対話的・深い学びの育成の視点を持ち、根幹となる基礎基本の確実な定着を同時に行う必要がある。また、どの教科においても児童の習熟度の違いを意識し、全ての児童の学力を高め、いく授業改善が必要である。国語の「書く」領域の都の平均との差は、0.8ポイントの上回りで他の領域と比べ極端に低かった。これらことから、十分に書く技能を身に付けている児童がいる一方、書くことに大きな課題をもつ児童の存在が分かる。自分の考えを書いたり、作文指導をしたりと書くことへの指導を全ての学年で積み上げていく必要があり、その力が思考力や表現力の基礎づくりとなる。

【授業改善の方針・目標】

自ら学び、自ら考える力を身に付けさせる授業を推進する

【授業改善のための具体的な取組】

例として、国語と算数のみ抜粋

国語

- <1年生>日記や作文指導において、「いつ」「どこで」「だれと」「なにをした」などのメモを書き、それをもとに文章を構成させる。
- <2年生>日常生活に即した言葉を用いた学習内容を取り入れ、興味や意欲をもって取り組めるようにする。また、物語文や説明文など様々なジャンルの文章を扱う。
- <3年生>筋道立てて考える力を養うために、自分の書いた文章の間違えを正し、相手や目的を意識した表現になっているかを確認する活動を作文指導に取り入れる。
- <4年生>作文指導では「はじめ」「中」「終わり」の組み立て表を用いて書かせ、内容を自分で整理できるようにさせる。
- <5年生>目的や意図に応じた表現力を養うため、必要な情報や疑問など複数の内容を結び付けて書いたり話したりする活動を設定する。
- <6年生>まとまりのある文章を書けるようにするため、作文指導では言葉を具体化したり抽象化したりする活動を取り入れる。

算数

- <1年生>数量の関係を正しく捉える力を身に付けるために、図や数直線等に整理して問題場面について考えたり、立式の根拠として説明したりする機会を設定する。
- <2年生>計算の意味と性質、図形や量の概念の理解を深めるため、問題を絵・図・式・言葉で考え説明する活動を取り入れる。
- <3年生>筋道立てて考える力を養うために、自分の考えをもち、少人数で自分の考えを伝えたり、質問したりする活動を取り入れる。
- <4年生>文章問題を解く力を付けさせるために、文章を読む際にポイントとなる言葉、数、何を聞かれているのかをチェックさせ、絵や図でイメージさせる。
- <5年生>筋道立てて考える力を培うために、問題場面や立式の根拠を言葉や図、式、数直線などを用いて説明する活動を多く取り入れる。
- <6年生>問題をより簡単に、より正確に解決することを実現させるために、より良い考え方を選択する活動を取り入れる。

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

- ・OJTを通して日常の授業で困っていることや悩んでいることを解決し、その成果を児童に還元していく。<一年間通して>
- ・学力調査や東京都ベーシックドリルの結果を踏まえ、実態に沿った授業を展開する。<学力調査、ベーシックドリルの結果が出た後から>
- ・学校評価で内部評価とともに外部評価も行い、結果を次年度の授業改善に活かしていく。<学校評価の集計後>